



平成 30 年 12 月 17 日  
独立行政法人国立科学博物館

## 科博NEWS展示 「最近話題となった日本からの新種、珍種、新発見」のご案内

独立行政法人国立科学博物館(館長:林 良博)は、来る2019年1月8日(火)から1月27日(日)まで、科博NEWS展示「最近話題となった日本からの新種、珍種、新発見」を開催いたします。

「世界の最新種トップ 10」に選ばれたアマミホシゾラフグ(2015年)やオモトソウ(2018年)の他、日本から最近発見され科学情報誌などで取り上げられた話題の新種や珍種などを実物標本と関連資料、そしてパネル解説で紹介します。

【主催】 国立科学博物館

【協力】 日本分類学会連合

【開催期間】 平成31年1月8日(火)～1月27日(日)

【開催場所】 国立科学博物館(東京都台東区上野公園7-20)

地球館1階「地球の多様な生き物たち」系統広場側

本件の詳細については、以下にお問合せください。

### 本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

担当研究員: 並河 洋(動物研究部 海生無脊椎動物研究グループ 研究主幹)

研究活動広報担当: 稲葉 祐一

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL: 029-853-8984 FAX: 029-853-8998

E-mail: t-shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

## 展示概要

「新種の発見」などの自然史学的な新発見は、マスメディアや科学情報誌などでも取り上げられ、一般的にも関心が高い生物多様性研究の大きな成果の一つです。「新種の発見」については、毎年国際生物種探査研究所(米国ニューヨーク州立大学)が「世界の新種トップ10」を選定しており、この中には日本産のものも含まれています。2015年には国立科学博物館 松浦啓一名誉研究員が発表したアマミホシゾラフグが、また、今年2018年には神戸大学 末次健司講師が発表したオモトソウが選ばれています。このような「世界の新種トップ10」に選ばれたものなど話題性のある新種生物などの標本を間近で観ることは、この分野に興味を持つ人々、特に、子供たちにとって生物多様性研究を知る入口として貴重な機会になると思われます。そこで、本NEWS展示は、アマミホシゾラフグやオモトソウをはじめとする最近日本から発見され話題となった新種、珍種数種について、実物や写真、解説パネルなどで紹介することで、生物多様性研究の面白さを感じていただくことを目的としています。

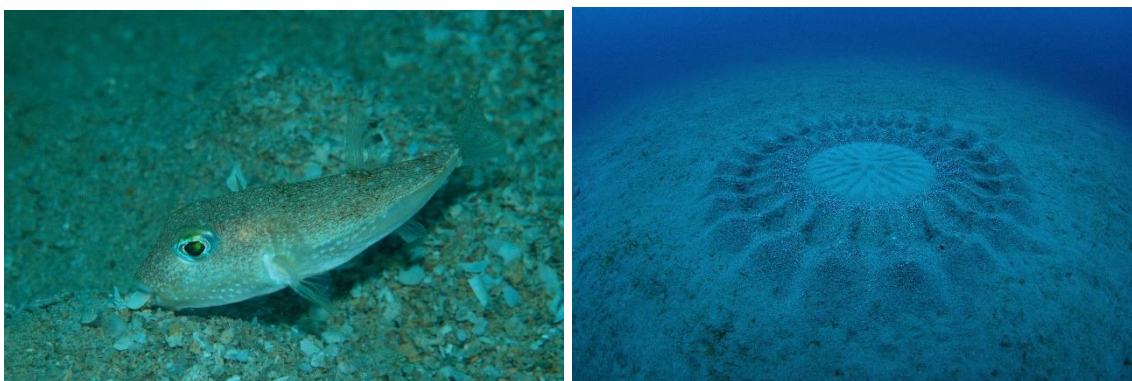
## 展示物

以下の写真のものを含む数種の生物を本展示で紹介します。

### 2015年世界の新種トップ10

#### 海底に“ミステリーサークル”をつくるアマミホシゾラフグ

アマミホシゾラフグは、奄美大島で発見され、2015年に新種として発表されました。この和名のアマミは奄美大島に、ホシゾラは体にある白点を星空に見立てたことに由来しています。雄が水深25mの海底に“ミステリーサークル”と呼ばれる直径2mの複雑な形の産卵巣をつくるのが特徴です。



アマミホシゾラフグの雄（体長10 cm程度）（左）と産卵巣（右）（写真提供：大方洋二）

## 2018 年世界の新種トップ 10

### キノコを食べる新種の植物オモトソウ

オモトソウは、光合成をやめてキノコなどの菌糸を取り込んで消化する「キノコを食べる植物（菌従属栄養植物）」の一種で、石垣島の於茂登岳の周辺から 2016 年に発見され、その後新種として発表されました。オモトソウという和名は、於茂登岳にちなんでつけられています。



直径 2mm ほどのオモトソウの花（矢印）（写真提供：末次健司）

## 科学情報誌などで話題となった新種の例として

### 口と腸しかない？珍渦虫 *Xenoturbella japonica* の発見

珍渦虫（チンウズムシ）は、脳を含む中枢神経や循環器官、生殖器官、そして、肛門もない動物で、他のどの動物と近縁なのかを判断するのが難しい謎の海産動物です。1949 年に北欧産の 1 種が報告されて以降、2016 年に北米沖東太平洋の深海（水深約 3700m）産の 4 種が報告されていました。そして、ついに日本からも 1 種が発見され、2017 年に新種として報告されました。今後この動物の謎が解明されることが期待されます。



三浦半島沖の水深 500m の海底から発見された珍渦虫（写真提供：中野裕昭）。この発見には国立科学博物館も貢献しています。